

# 旅するドクター

今号の表紙:ノイシュバンシュタイン城(ドイツ・バイエルン)

高家院長が旅の途中で撮影した、世界の美しい風景を紹介します。

前々回、ディズニーの白雪姫のお城のモデルとして、スペイン-セゴビアのアルカサルをご紹介しましたが、ディズニー=シンデレラ城=ノイシュバンシュタイン城という反応ばかりでした。そこで今回はノイシュバンシュタイン城のお話をします。

結婚式で新郎新婦入場の際に流れる結婚進行曲の由来を御存じですか?これはドイツの作曲家ワーグナーが作ったオペラ【ローエングリン】の第3幕の始まりで、公女エルザと“白鳥の騎士”ローエングリンの礼拝堂での挙式で流れる[婚礼の合唱]の曲が広まったものです。このオペラは、ドイツの南でオーストリア国境に接するバイエルン州南端にあるシュバンガウ(白鳥の里)という村の白鳥伝説に着想を得たものだそうです。19世紀前半にバイエルン国王マクシミリアン2世がこの地にあった廃城のシュバン(白鳥)シュタイン(石)城を購入改築し、ホーエン(上の)シュバンガウ城と命名しました。幼少期をこの城で過ごした息子のルートヴィヒ2世は、近くの古城を取り壊し新築した城にノイ(新)ホーエンシュバンガウ城と命名しました。彼はこの城の完成前に

亡くなりますが、その後すぐにノイシュバンシュタイン城と改名され一般公開されるようになりました。残念ながら、この城は伝統的な石造りではなく鉄筋コンクリート、モルタル製のために歴史遺産候補には挙げられないそうです。

ところでこの城を紹介する多くの写真、実は上の写真のペラート峡谷に架かるマリエン橋から撮ったものです。この城の右側から俯瞰すると、美しい山並みを背景にまさしくシンデレラ城が現れます。余談ながら、この城はドイツ3大名城に挙げられますが、ここから西北西のフランス国境方向には、かのプロシアの先祖発祥の平原があり、その丘にはもう一つの美城が聳えています。世界史でも習うホーエンツォレルンの城です。機会があれば是非足を延ばしてみてください。



**アクセス**  
[電車の場合]  
■地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。  
[お車の場合]  
■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。  
■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。  
■中央環状線(堺方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。  
■中央環状線(守口・大日方面)からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。  
■1号線(第2京阪側道)(枚方方面)からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。  
病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブドームのコインパーキングをご利用ください。

[お問い合わせ先]  
医療法人 清翠会 牧リハビリテーション病院  
〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号  
URL <http://www.maki-group.jp>  
TEL.072-887-0010  
7 | まきりは vol.15

Medical for Happiness  
牧ヘルスケアグループ

牧リハビリテーション病院 広報誌

# まきりは

VOL. 15 令和元年5月

私たちの理念

## Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

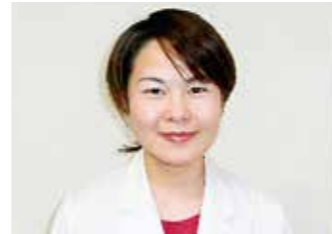
牧ヘルスケアグループは、地域の医療機関、介護事業所などと密接な連携をとり、予防から急性期、回復期、維持期、在宅の機能を担う「地域完結型の保健・医療・福祉複合体」として、みなさまの幸せな暮らしを支え続けます。私たちは「Medical for Happiness」の実現をめざしています。



### contents

- P1 退院に向けて薬をきちんと飲めるようサポートします
- P3 フレッシュ!牧リハ フレッシュマン計13名が入職しました!!
- P4 リハビリテーション部の紹介 言語聴覚療法科
- P5 デイケア門真だより 自分の声を最初に聴くのは自分自身 ~言葉が持つ力~
- P6 訪問リハビリテーションダイアリー 訪問言語聴覚士
- P6 まきりは連携の会
- P7 世界の美しい風景 旅するドクター

# 退院に向けて 薬をきちんと飲めるよう サポートします



薬剤師  
藤井 佳奈(ふじい かな)

皆さんはご自宅でどのように薬を飲んでいますか？高齢の方は複数の病気を抱えていることが多く、処方される薬の種類も増えてゆきます。当院でも、毎日飲む薬が10種類以上！という患者さんも少なくありません。飲む時間、飲む個数も薬によって様々です。その薬を用法通り、間違えず欠かさず服用することができているでしょうか…

認知症の症状が無くても、薬を飲み忘れたり飲み間違えたり、視力の低下や手指の麻痺などの障害によってきちんと服用できなくなることもあります。

入院中であれば、いつも医療スタッフが傍にいて服薬の介助や正しく服用できているか確認することができますが、ご自宅に退院されてからは継続が困難なこともあります。

リハビリが進んで、ご自宅での生活に復帰されるのに合わせ、薬も患者さん一人一人に適した管理方法が見つけられるよう私たち薬剤師は日々取り組んでいます。

## セットする

入院中に、1日分ずつの管理からスタート。慣れてきたら1週間分ずつへ。

患者さん自身で忘れず服薬できるよう、1日分の薬をセットできる配薬ケースを使用します。これなら飲み忘れがあったら一目でわかります。自己管理を始めるにあたって、病棟の看護師から「手の麻痺で開封しにくいので、端に切り込みがあった方がいい」とか「視力が弱いので、袋の文字を大きくできないですか」など、相談を受けることも。個々の患者さんに合った分包方法で対応しています。また、自宅での薬の管理を想定して、1週間分の薬をセットできる壁掛けタイプの投薬カレンダーを使用することもあります。



一週間分の投薬カレンダー



開封の練習や見分けがつくようにヒートシールのままと一包化

## まとめる

1回分ずつ薬をまとめます。

「一包化(いっぽうか)調剤」といいますが、当院のほとんどの入院患者さんの薬は1回分ずつまとめて分包を行っています。分包紙に日付や朝・昼・夕など服用時間を表記し、服用時間によって色分けをしています。これによって、飲む数や飲む時間の間違いがなくなります。

色分けで判別しやすくしています



1日分がつながっていて解りやすい。



## 種類を減らす

薬の種類を少なく。  
飲みにくい薬への対応も。

薬の種類が多いとそれだけ飲み方も複雑になってしまいます。

症状が改善されているのに続けている薬があったり、同じような効能の薬が重複していることがあります。

当院の薬剤師は常に処方内容のチェックを行っており、検査データなどからその患者さんに適切な薬の量であるか、減らせる薬がないか提案しています。

また、粉薬が飲みにくいから、苦い薬があるから、飲み込みにくい薬だから…といった理由で、服薬を拒否したり中断したりする事は無いでしょうか？そのような情報を医師や看護師から得て、患者さんごとに適した飲みやすい剤型への変更も対応しています。



薬剤師も  
チーム医療の一員です

## 回数を減らす

飲む回数が少なくなるように。

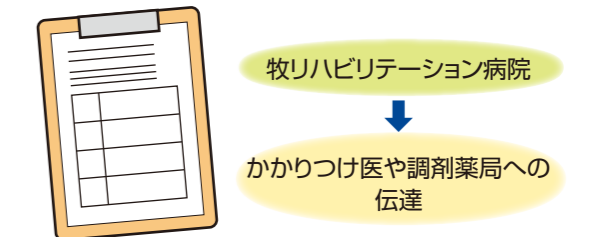
退院後のライフスタイルを考慮し、ご自宅で介護される方が管理しやすい服用時間や、介護サービスが受けられる時間帯に合わせて、例えば「朝食後と夕食後だけ」とか、「1日1回朝だけ」という風に用法をシンプルにすることもできます。



## つなぐ

入院中の服薬情報を、  
かかりつけ医、調剤薬局に  
繋ぎます。

退院時に持ち帰っていただく薬も、入院中と同様に一包化しています。薬と一緒に「お薬の説明書」、「お薬手帳」をお渡ししていますが、薬の管理方法や処方時に注意してほしい事など、かかりつけ医や調剤薬局への伝達が必要な場合は薬剤師サマリーの作成も行います。退院に向けて、薬に関する心配があれば何でも薬剤師にご相談下さい。(※退院後、調剤薬局で薬をもらうときも、一包化してもらうことができます。(有料))



# FRESH! MAKIRIHA

☆フレッシュ!牧リハ☆

## フレッシュマン計13名が入職しました!!

今春もフレッシュマンの理学療法士9名、作業療法士4名、合計13名のリハビリテーション療法士が牧リハビリテーション病院に入職いたしました。

今年の牧リハビリテーション病院には総勢90名の療法士が揃い、当院をご利用される患者さま方に十分なリハビリテーションを提供できる体制となっております。

日本の超高齢化社会を見据え、毎年多くのリハビリテーション療法士が誕生することは素晴らしい医療体制の構築であり、当院ではこれら療法士が一丸となって患者さまのリハビリテーションに取り組んでまいります。

医療人としての誇りと謙虚さを持ち、日々研鑽を重ねながら患者さまに寄り添い、より質の高い医療技術で皆さま方の支えになれることを目標に努力を続ける所存です。

今後とも牧リハビリテーション病院を宜しくお願い申し上げます。

リハビリテーション部  
部長  
芳本 康司(よしもと こうじ)

## リハビリテーション部の紹介 言語聴覚療法科

言語聴覚士は「話せない・理解できない」といった言葉の障害(失語症)、記憶・思考・学習・注意などの障害(高次機能障害)、食べ物が飲み込めない、むせるといった障害(嚥下障害)を抱えた方に、自立生活や社会復帰を支援するリハビリテーションの専門職です。

当院では、主に脳卒中などによって上記の障害となった方々にリハビリテーションを提供しています。対象となる患者さんの症状はそれぞれ異なりますので、色々な検査(言葉・記憶・飲み込みの検査など)で適確に評価するとともに、個々の患者さんの生活背景や個性に応じてリハビリテーションプログラムを計画いたします。

現在、13名の言語聴覚士が在籍しており、日々の勉強会や学会の参加を通じて知識・技術の習得に努め、粘り強く諦めないリハビリテーションで「話す」「食べる」「考える」機能の回復を精一杯支援しています。



## Speech Therapy

粘り強く諦めない  
リハビリテーションで  
「話す」「食べる」「考える」  
機能の回復を支援します



# デイケア 門真だより

## 自分の声を最初に聴くのは 自分自身

～言葉が持つ力～



「おはようございます!」

颯爽と笑顔で来所され、お帰りの時には「今日も楽しかったわ、ありがとう!」と温かな言葉をかけて下さるNさん。

長年、悩まされていた膝の痛みを改善するため手術をされた後、牧リハビリテーション病院に入院。約3カ月のリハビリ期間を経て、退院後にデイケアをご利用となりました。開始当初からリハビリ・入浴・他者との関わり等、どんなことでも前向きに取り組んで下さっています。

膝の痛みがあった頃は自宅で過ごすことが多かったようですが、思い切って手術を受け、リハビリを頑張られたことにより、社会的で活動的な生活を取り戻されたように思います。

Nさんはよく「身体を動かすのが楽しい!問題が解いたり、勉強できることが楽しい!買い物したり、お食事したり、旅行もできるようになって、今楽しいことがいっぱいあるのよ。ここに通えるようになって嬉しいことばかり」と笑顔で仰って下さいます。Nさんの『楽しい!』という言葉を目にすると、周りにも『楽しい』という感覚が伝わり、接している方は自然に笑顔になってしまいます。Nさんとの会話にはそんなパワーのある言葉が多く、気付いたら元気をもらえるような、不思議な力を感じます。

デイケアをご利用されている方の中には  
病気がなったり、

Nさん  
デイケア週2回ご利用  
されています。  
時間をいっぱい使っ  
て、活動的に過ごされ  
ています!

不自由なことを抱えている方もおられ、気付かない間にマイナスな考え方をしてしまい、不安になるという声を聞くこともあります。そんな時こそプラスの言葉を使うことで、どんよりしていた気持ちが軽くなることもあるのではないのでしょうか。

自身が発する声や言葉を最初に耳にするのは自分自身でもあり、せっかく一番に聴こえてくるなら心も嬉しい言葉であると、前向きな気持ちも芽生えるような気がします。Nさんと接する中で、人と人がつながりを持つために、“言葉”は重要なツールということ、改めて考えさせられる機会になりました。

私たちも周りの方へ良い影響を与えられるように、より言葉の力を意識していきたいと思えます。

支援相談員: 宇田真弓(うだまゆみ)



## 訪問言語聴覚士

訪問リハビリならではのこんなメリット!

当院の訪問リハビリテーション事業所には、現在、常勤スタッフ1名、病棟業務と兼務しているスタッフ2名の言語聴覚士が在籍しています。在宅で過ごしておられる方の依頼はもちろん、退院後にリハビリテーションを継続される場合には、ご自宅への訪問を行っています。自宅でリハビリを行うため、ご家族の方に実際の訓練を見て頂けます。

嚥下障害の方では実際にセラピストが食事場面を確認することで、介助方法や環境設定を提案することができます。言語障害の方では、言語能力を強化するだけでなく、本人の意思を伝達できるような手段を共に考えることでコミュニケーションがしやすくなることもあります。このように自宅で行うからこそ問題点をすばやく捉えることができ、効果に直結する解決策を提案できることが訪問リハビリ

を利用する最大のメリットです。

言葉がうまく話せない、食事でムセることが多くなっている等、困っておられる場合には、お気軽にご相談下さい。

訪問リハビリテーション門真  
言語聴覚士  
濱野 慎悟  
(はまの しんご)



### 第23回 「まきりは連携の会」の ご案内

日時 2019年6月15日(土) 14時～16時

場所 牧リハビリテーション病院 2階会議室

対象者 地域の医療、介護、福祉関係機関の従事者

今回の  
テーマ

### 心も体も快適に!排泄について考えよう!

[第1部]

医療講演

「高齢者の排尿の特徴、排尿障害の原因(仮)」

講師: 野崎徳洲会病院

泌尿器科 部長 内本 晋也 先生

[第2部]

「トイレでの自立排泄を目指して」

回復期病院における排泄リハビリテーションの紹介

発表者: 牧リハビリテーション病院

リハビリテーション部 作業療法士 尾上 正恵

参加ご希望の方は5月31日(金)までに、お電話かメールでご連絡お願い致します。尚、会場の都合上、人数制限がありますので、定員に達し次第締め切り致します。

TEL.072-887-0065

mail a.namoto@maki-group.jp

担当: 名本(なもと)・紙谷(かみたに)